



# 2月 ちびっこの森通信 vol.207

## ☆☆今月のテーマ☆☆

- ・ 節分の由来や鬼の話などに興味をもち、豆まきを楽しむ
- ・ 季節の移りかわりで自然に触れ合い、その変化に目を向けながら元気に遊ぶ

## ～今月の園内学習～

- ・ 足し算…5の段
- ・ 掛け算…5の段
- ・ 数字カード…1～20の数字
- ・ 食べ物カード…2月の旬な食べ物
- ・ 漢字カード…小学校1学年で習う漢字30
- ・ 魚への漢字…「さば」「ぶり」
- ・ 木への漢字…「ひいらぎ」「くぬぎ」
- ・ 絵画カード…「考える人」ほか
- ・ 歴史カード…「日蓮」ほか
- ・ ひらがなカード…「あ行」
- ・ 国旗カード…日本ほかアジアの国々
- ・ 地理カード…広島県ほか中国地方
- ・ 声に出して読みたい日本語…論語ほか
- ・ 英会話…動物・曜日・季節の種類



## ～保育のポイント～

しつけには①(心身の)健康、②知育および③社会(または道徳)性の3要素で構成されています。そのことに関連し、まず日本が「恥の文化」として紹介されている「菊と刀」(ルース・ベネディクト著)を見ていきたいと思ひます。その中で、日本と米国では(厳格)生活曲線が逆だ、の一節があります。これは、日本は赤ちゃんの時にわがママを許し、甘やかして育てて成長に従い厳しくするのに対し米国では正反対で0歳の時が最も厳しく、3歳で少し緩め、6歳ではもう少し緩め、9歳にさらに緩め、以後は親子で話し合ひで指導していく傾向だ、とのこと。日本では幼少期にこどもの望むままに育てようとする風潮となり、それはこどもを甘やかし、我慢を教えないことにつながり、こどもの欲求は次第に膨れ上がり、とどまらず大きくなってしまいかねないことに繋がりがかねない、との事。ですから、幼少期より続くわがママは、我慢をさせられることから生じるというよりも、我慢を教えられなかったこと、言い換えれば、こどもの欲求を満たさないからではなく、欲求を満たしすぎるから生じていると認識すべきだと指摘されています。このいい例が、仏国の中流家庭は幼少期に厳しく育てることからこどもたちは自分の欲求を抑えることを理解し、欲求不満を抱え込まないので問題行動を起こすことは稀だと紹介されています。幼少期のお子さんとの向き合い方の一つのヒントとなれば幸いです。(赤ちゃん・幼児の知力と才能を伸ばす本、七田真著より抜粋)



## ～行事予定～

- ・ 節分会…3日
- ・ リトミック…7日(年少) 28日(年中・年長)
- ・ 身体測定…8日
- ・ 書道教室…2日・16日
- ・ 避難訓練…17日
- ・ 英語教室…21日
- ・ 体操教室…22日(年中・年長) 24日(年少)
- ・ 音楽教室(チューブ)…28日
- ・ 発表会…25日

※通常保育はございません。



## さくら組だより

2023年の保育始めは、園恒例の古来からのコマ、福笑いやカルタ取り等のお正月遊びでスタートしました。特に、「福笑い」では片手で目隠しをし、顔を完成させていくのですが、その出来に「変な顔～」や「口が上にあるよぉ～」と諺「笑う門には福来る」の通りに笑顔が広がり、心が温まるひとときになっていました。手づくりの手回しコマの「誰が一番長く回るか？」コンテストは大盛り上がりでした。また、日頃、ひらがなや数字に興味関心が増してことある毎に引出しの名前や絵本に親しむ機会が多かったこともあり、月齢が上の子に交じてカルタ取りに挑戦する姿には感心させられました。他には、給食時の食具で箸への憧れが増してきているようでフォークの持ち方から仕掛け箸などでおかずを切り分け、つかみ、口へ運ぶといったことにチャレンジしています。上手くいく時もあれば、そうでない時もありますが、諦めずに一つのことをやり遂げようとする姿勢を大事にし、よく見守り、習慣化できるようにしていければと思います。

## ひまわり組だより

今年は稀に見る積雪の冬にこどもたちも「寒いっ～」と口には出すものの、怖いもの知らずで寒さに負けず元気一杯に「雪遊び」を楽しんでいます。寒が厳しい分、粉雪状の表面に手を押し付けてふんわかな感触を確認したり、手型をつけて楽しむといった貴重な体験ができたのは何よりでした。今月の節分に向け、「鬼への、パンツはいいパンツ～」と気分よく絵の具で鬼パンツにトラ模様を表現し、小さくした花紙を丸めて鬼退治用の豆もたくさん準備したところ迄はいいのですが、いざ節分の由来で柀やイワシの話をする頃には切実感が去来したように「鬼が来ないように柀集める」といった、笑うに笑えないエピソードもありました。鬼のお面も完成し、今は節分を待つばかりとなり、想像ではなくもしかしたらあるかもしれない心の中の「鬼退治」に節分がつながるといいなぁ～と願っているところです。こちらのお面は節分当日にはお持ち帰りとなりますので、こどもたちの力作にご期待下さい！今月も体調管理をしながら元気に楽しく過ごしていけるようにしますのでよろしくお願い致します。

## ゆり組だより

年が明けて、全てことが「～はじめ」となるわけですが、年長クラスの子には何と云ってもいつもの鉛筆の書道教室がこの時ばかりは本格的な毛筆体験ができる書初めがあるので 他の月齢児にはない特別感もあって興味津々で臨んでいました。鉛筆は力加減で多少、筆圧の関係で濃かったり薄かったりといった変化は見られますが、毛筆は一歩間違えば筆の運びが直接伝わり、如実に書き上がりに影響することになりかねません。そこで、まずは横線書きで筆運びを学び、それから先生に手を添えられ、その後は自身で手本を見ながら一字、一字を大切にしながら干支「うさぎ」を表現していきました。みんなの作品展は当日、園エントランスに掲示し、保護者の皆さんからも講評をいただき、こどもたちの自信に繋がったので何よりでした。最近、園では男の子チームはサッカーや転がしドッチボールで身体を存分に動かし、女子チームは体操教室でも取り組んでいる縄跳びに夢中のようにです。まだまだ寒さが続くようですから、感染症などに気をつけながら残り2ヶ月となった園生活の仕上げが出来るように取り組んでいきますのでよろしくお願い致します。

## 給食室だより ～大豆は小粒でもパワーはすごい！～

今月3日は冬から春へと変わる節分。現代のように医療が進化していない昔は季節の変わり目は体調を崩し死に至ることも多かったと言われます。ですから、そんな邪気を追い払おうと古来より行事が伝承されてきています。節分の豆(魔の目)になぞらえ、魔(鬼)の目を炒り撃退し、生のままと違い拾い忘れられた豆から芽(災難の目)が出ることもない、ということとされています。また、豆まきが定着したのは、五穀(米、麦、粟、キビ、豆)の中で小さな一粒の種子に聖なる力が宿り、やがて大きな植物へと成長するということからだそうす。その大豆は別名、「畑の肉」と称されているように全体の約3割が良質の植物性たんぱく質から成り、人体に必要なアミノ酸をバランスよく含んでいます。その栄養効能には血中コレステロールを減少させ、肥満改善にも効果的。また、豊富なカルシウム、食物繊維、カリウムや葉酸など、人体に不可欠な栄養素も含まれています。他にも、加工食品として味噌や醤油、納豆、テンペなどの発酵食品としても人気で健康維持や増進に役立っています。この機会に小さな豆パワーを再認識し、元気の源を摂り入れて元気に過ごしていけるようにしましょう！